



平成 24 年 12 月期 第 1 四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成 24 年 4 月 27 日

上場会社名 株式会社ペッパーフードサービス 上場取引所 東  
 コード番号 3053 URL <http://www.pepper-fs.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 CEO (氏名) 一瀬 邦夫  
 問合せ先責任者 (役職名) 管理本部 総務部長 (氏名) 猿山 博人 (TEL) 03 (3829) 3210  
 四半期報告書提出予定日 平成 24 年 4 月 27 日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成 24 年 12 月期第 1 四半期の業績 (平成 24 年 1 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日)

(1) 経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24 年 12 月期第 1 四半期	1,283	2.6	9	△40.1	△5	—	△13	—
23 年 12 月期第 1 四半期	1,251	△10.5	16	—	19	—	△28	—

	1 株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24 年 12 月期第 1 四半期	△550.56	—
23 年 12 月期第 1 四半期	△1,178.76	—

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
24 年 12 月期第 1 四半期	1,461	89	5.2
23 年 12 月期	1,586	101	5.6

(参考) 自己資本 24 年 12 月期第 1 四半期 79 百万円 23 年 12 月期 88 百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第 1 四半期末	第 2 四半期末	第 3 四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23 年 12 月期	—	0.00	—	0.00	0.00
24 年 12 月期	—	—	—	—	—
24 年 12 月期(予想)	—	0.00	—	0.00	0.00

(注) 当四半期における配当予想の修正有無 : 無

3. 平成 24 年 12 月期の業績予想 (平成 24 年 1 月 1 日～平成 24 年 12 月 31 日)

(%表示は、通期は対前期、第 2 四半期(累計)は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1 株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第 2 四半期(累計)	2,738	10.2	136	215.1	134	198.6	105	—	4,309.64
通期	5,542	6.9	327	144.5	326	150.2	268	852.9	10,999.84

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

#### 4. その他

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	24年12月期1Q	24,364株	23年12月期	24,364株
② 期末自己株式数	24年12月期1Q	一株	23年12月期	一株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	24年12月期1Q	24,364株	23年12月期1Q	24,364株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

- ・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了しております。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- ・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 財政状態に関する定性的情報 .....	2
(3) 業績予想に関する定性的情報 .....	3
2. サマリー情報（その他）に関する事項 .....	3
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	3
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	3
3. 四半期財務諸表 .....	4
(1) 四半期貸借対照表 .....	4
(2) 四半期損益計算書 .....	6
第1四半期累計期間 .....	6
(3) 継続企業の前提に関する注記 .....	7
(4) セグメント情報等 .....	7
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	7

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する定性的情報

当第1四半期累計期間におけるわが国経済は、平成23年3月11日に発生した東日本大震災の影響により、未だ厳しい状況である中で、緩やかに持ち直してきておりました。しかしながら、円高進行による輸出の伸び悩み、欧州の財政不安による株価の低迷や世界経済の減速などにより、景気の先行きは依然として不透明な状況で推移しております。

外食産業におきましても、消費者の節約志向は続いており、個人消費は底堅い状況が続いております。

こうした状況のもと、当社は引き続き安心・安全な商品を提供できる体制の強化と、同業他社との差別化を図る顧客サービスの提供に務めてまいりました。また、新規メニュー導入及び価格の見直しを行い、幅広い層の顧客の取込みを図ってまいりました。

しかしながら、新規メニュー導入のための費用が発生したこと、株主数増加に伴い株主優待費用が増加したこと及び貸倒引当金繰入額を営業外費用項目に16百万円計上したことなどにより経常損失を計上することとなりました。

これらの結果、当第1四半期累計期間における業績は、売上高1,283百万円（前年同期比 2.6%増）、営業利益9百万円（前年同期比 40.1%減）、経常損失5百万円（前年同期は19百万円の経常利益）、四半期純損失13百万円（前年同期は28百万円の四半期純損失）となりました。

セグメントの業績は次のとおりです。

#### ① ペッパーランチ事業

ペッパーランチ事業につきましては、「ペッパーランチ大復活」と称し、海外事業で蓄積されたノウハウを新たな資源として活用し、多様なニーズに応える新メニュー展開、広範囲な客層の掘り起こしを目指しました。グランドメニューの大幅改革に取り組み、従来のステーキ&ハンバーグに加えリゾット、パスタ、カレーなどを新たにラインナップして新規メニューに投入してまいりました。また、ショッピングセンター内の直営店では、家族向けの新価格帯の品揃えを行い、立地に応じた顧客への提供スタイルの確立に取り組んでまいりました。しかしながら、悪天候の影響などもあり、来店客数が伸び悩み前年同期を下回りました。

海外におけるペッパーランチ事業では引き続き好調に推移しております。新規出店に伴う機器等の売却、ロイヤリティ収入などの売上高は32百万円（前年同期比127.40%）となりました。

この結果、当第1四半期累計期間における売上高は893百万円（前年同期比98.7%）、営業利益は118百万円（前年同期比100.0%）となりました。また、新規出店数は6店舗（うち海外5店舗）であり、ペッパーランチ事業全体の店舗数は237店舗となりました。

#### ② レストラン事業

レストラン事業につきましては、ステーキ業態「炭焼ステーキくに」、とんかつ業態「こだわりとんかつ かつき亭」、洋食業態の「ステファングリル」、ハンバーグ業態「炭焼ビーフハンバーグステーキくに」、ヤングファミリー層を対象としたサラダバー付き業態「太陽の家族くに」の5業態に加えて、新業態のとんてき専門店「美味浅草とんてきくに」を吉祥寺にオープンいたしました。業態や立地条件ごとにメニュー政策を行い顧客の満足度向上に務めてまいりました。

この結果、当第1四半期累計期間における売上高は384百万円（前年同期比114.4%）、営業利益は16百万円（前年同期比139.6%）となりました。また、新規出店数は1店舗であり、レストラン事業全体の店舗数は26店舗となりました。

#### ③ 商品販売事業

商品販売事業につきましては、「とんかつソース」及び「冷凍ペッパーライス」の既存販売先への売上拡大を目指しましたが、引き続き外食産業の厳しい環境下で販売先の店舗の閉店等により売上高が減少いたしました。

この結果、当第1四半期累計期間における売上高は5百万円（前年同期比56.1%）、営業損失は2百万円（前年同期は2百万円の営業利益）となりました。

### (2) 財政状態に関する定性的情報

当第1四半期会計期間末の総資産は、前事業年度末に比べて125百万円減少し、1,461百万円になりました。これは主に、現金及び預金が40百万円減少したこと、売掛金が27百万円減少したこと、貯蔵品が12百万円減少したこと及び貸倒引当金が15百万円増加したことによるものです。

負債合計は、前事業年度末に比べて112百万円減少し、1,372百万円となりました。これは主に、買掛金が53百万円減少したこと、借入金が27百万円減少したこと、未払法人税等が23百万円減少したこと及び社債が21百万円減少したことによるものです。

純資産は、四半期純損失を13百万円計上したことなどから、前事業年度末に比べて12百万円減少し、89百万円となりました。また、自己資本比率は、前事業年度末に比べて0.4ポイント減少して5.2%となりました。

(3) 業績予想に関する定性的情報

平成24年2月13日付「平成23年12月期 決算短信〔日本基準〕(非連結)」にて発表いたしました第2四半期累計期間及び通期の業績予想につきましては、現在のところ変更はありません。

2. サマリー情報(その他)に関する事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

4. 四半期財務諸表  
 (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成23年12月31日)	当第1四半期会計期間 (平成24年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	137,753	97,493
売掛金	279,424	251,458
商品	24,024	18,459
貯蔵品	40,864	28,495
繰延税金資産	5,155	5,155
その他	152,410	133,843
貸倒引当金	△12,700	△13,059
流動資産合計	626,932	521,847
固定資産		
有形固定資産		
建物	556,632	563,231
減価償却累計額	△319,267	△321,631
建物（純額）	237,364	241,599
その他	521,132	522,093
減価償却累計額	△423,389	△416,718
その他（純額）	97,743	105,374
有形固定資産合計	335,107	346,974
無形固定資産	28,376	18,040
投資その他の資産		
敷金及び保証金	543,974	544,029
その他	72,153	66,480
貸倒引当金	△22,596	△38,198
投資その他の資産合計	593,531	572,312
固定資産合計	957,015	937,326
繰延資産		
社債発行費	2,406	2,102
繰延資産合計	2,406	2,102
資産合計	1,586,355	1,461,276

(単位：千円)

	前事業年度 (平成23年12月31日)	当第1四半期会計期間 (平成24年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	444,351	390,727
短期借入金	4,320	—
1年内返済予定の長期借入金	204,183	180,851
未払金	91,841	111,650
未払法人税等	71,136	47,971
賞与引当金	—	2,499
資産除去債務	1,654	1,653
その他	179,997	175,487
流動負債合計	997,484	910,841
固定負債		
社債	127,200	105,600
資産除去債務	36,186	35,649
受入保証金	318,798	315,398
繰延税金負債	4,995	4,769
固定負債合計	487,180	461,418
負債合計	1,484,664	1,372,259
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	619,541	619,541
資本剰余金	576,098	576,098
利益剰余金	△1,104,416	△1,117,830
株主資本合計	91,223	77,809
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△2,262	△1,121
評価・換算差額等合計	△2,262	△1,121
新株予約権	12,728	12,328
純資産合計	101,690	89,016
負債純資産合計	1,586,355	1,461,276

(2) 四半期損益計算書  
(第1四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年3月31日)	当第1四半期累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年3月31日)
売上高	1,251,279	1,283,517
売上原価	616,423	646,790
売上総利益	634,856	636,727
販売費及び一般管理費	618,582	626,971
営業利益	16,273	9,755
営業外収益		
受取利息	129	81
受取賃貸料	636	1,296
協賛金収入	4,538	1,650
その他	1,618	875
営業外収益合計	6,923	3,904
営業外費用		
支払利息	2,355	1,398
社債利息	931	735
貸倒引当金繰入額	—	16,580
その他	802	435
営業外費用合計	4,088	19,149
経常利益又は経常損失(△)	19,108	△5,490
特別利益		
固定資産売却益	181	3,197
貸倒引当金戻入額	95	—
その他	—	400
特別利益合計	277	3,597
特別損失		
固定資産除却損	617	2,232
減損損失	10,381	—
災害による損失	5,424	—
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	18,956	—
特別損失合計	35,379	2,232
税引前四半期純損失(△)	△15,994	△4,125
法人税、住民税及び事業税	8,041	9,513
法人税等調整額	4,683	△225
法人税等合計	12,725	9,288
四半期純損失(△)	△28,719	△13,413



（3）継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

（4）セグメント情報等

前第1四半期累計期間（自 平成23年1月1日 至 平成23年3月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント			合計	調整額 （注1）	四半期損益 計算書計上額 （注2）
	ペッパーランチ 事業	レストラン事業	商品販売事業			
売上高 外部顧客へ の売上高	905,494	336,273	9,511	1,251,279	—	1,251,279
計	905,494	336,273	9,511	1,251,279	—	1,251,279
セグメント利益	118,398	12,059	2,451	132,909	△116,636	16,273

（注）1. セグメント利益の調整額△116,636千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

「ペッパーランチ事業」において、当第1四半期会計期間に営業活動から生ずる損益が著しく低下した店舗等について、当該店舗の資産グループの帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上いたしました。なお、当該減損損失の計上額は、当第1四半期累計期間においては10,381千円であります。

当第1四半期累計期間（自 平成24年1月1日 至 平成24年3月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント			合計	調整額 （注1）	四半期損益 計算書計上額 （注2）
	ペッパーランチ 事業	レストラン事業	商品販売事業			
売上高 外部顧客へ の売上高	893,639	384,543	5,334	1,283,517	—	1,283,517
計	893,639	384,543	5,334	1,283,517	—	1,283,517
セグメント利益 又はセグメント 損失（△）	118,339	16,835	△2,675	132,498	△122,743	9,755

（注）1. セグメント利益又はセグメント損失（△）の調整額△122,743千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又はセグメント損失（△）は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

（5）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。